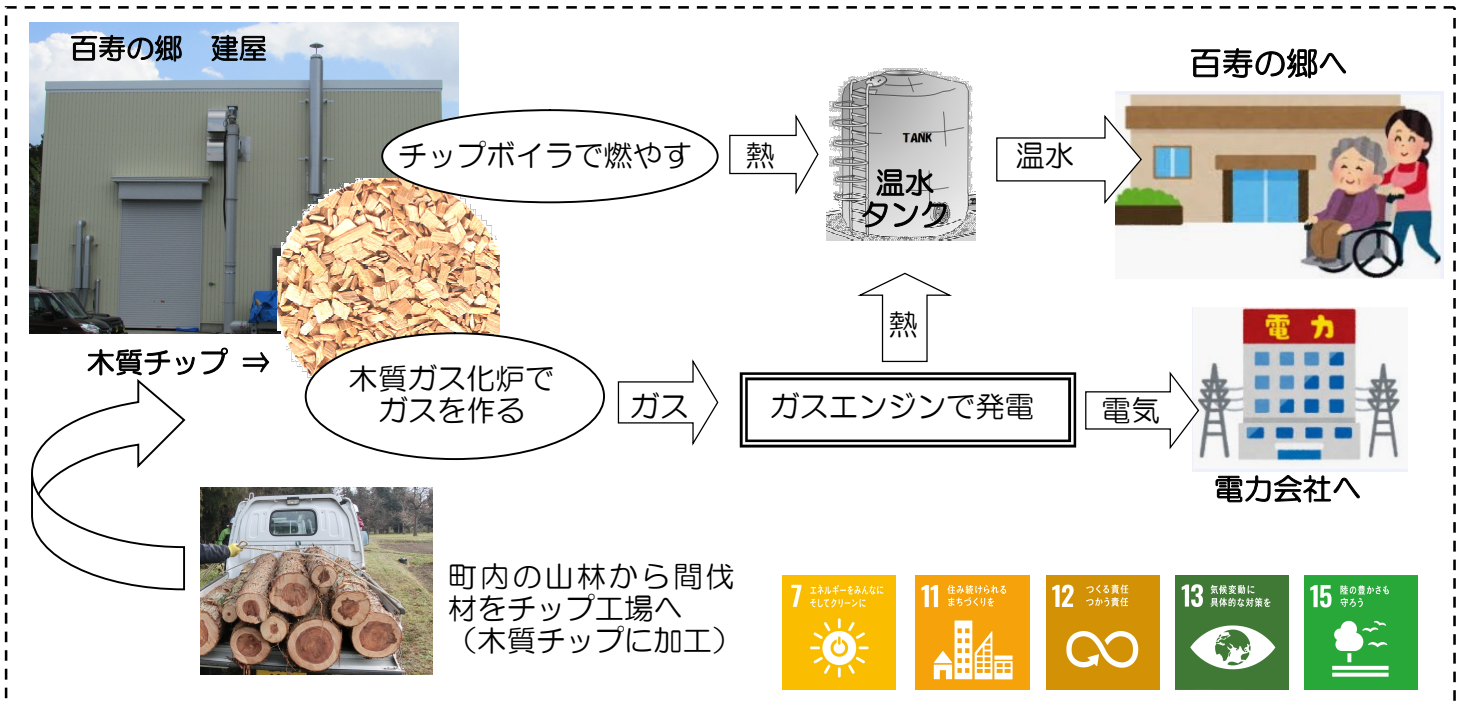


も ず さと 百寿の郷の取り組み ~エネルギーも地域内で循環~

紫波町では持続可能な社会の実現のために、脱炭素のまちづくりを進めています。今回は、町内の森林整備で伐採された未利用材（間伐材）を活用した「木質チップボイラ」と「木質熱電併給」の設備を導入した特別養護老人ホーム「百寿の郷」の取り組みを紹介します。



<細川理事長からお聞きしました>

◎設備導入のきっかけは？

既存の重油ボイラーが老朽化し対応を考えていた時に、紫波グリーンエネルギーさんから木質チップを活用した設備の提案をいただきました。

以前から再生可能エネルギー（太陽光発電、太陽熱温水器）を導入しており、バイオマスエネルギーにも関心がありました。また、熱の利用料だけで設備への投資がいらなことから、費用の面でのメリットもありました。

◎この設備に期待することは？

以前、震災や豪雨災害の時この施設も停電等の被害があり、地域の方々に発電機を持ってきてもらって大変お世話になりました。この発電設備、今回はすべて売電する契約になっていますが、停電時には施設の発電を利用できるように進めていきたいと思っています。災害時、地域の方が施設に避難できるライフライン的な役割も果たせることに、職員たちも期待しています。



百寿の郷 細川博明理事長（左）
紫波グリーンエネルギー(株) 山口勝洋代表（右）

◇◇◇ 使用済み食用油のリサイクル ◇◇◇

紫波町では、使用済みの食用油を回収・精製し、軽油の代替え燃料であるバイオディーゼル燃料（BDF）として再生しています。この燃料は、環境にやさしい燃料として注目されており、トラックや乗用車、重機等に使用しています。

◎使用済み食用油リサイクルのメリット

ごみの減量

使用済み食用油を固めたり、紙に吸わせて燃えるごみとして処理せず、回収してリサイクルすることで、ごみの量を減らすことができます。

資源の有効活用

軽油の代わりにバイオディーゼル燃料（BDF）を使用することで、化石燃料の使用量を削減できます。

地球温暖化の抑制

植物由来の燃料であるため、大気中の二酸化炭素を増加させない「カーボンニュートラル」と呼ばれる特性を有しています。



◎使用済み食用油の回収方法が変わります



回収BOXの中にある回収専用容器（ポリ容器）へ移し替えて、持参した容器は持ち帰り再利用をお願いします。

(※1) 洗剤を使わずに良く洗い乾かしたペットボトル（スポーツドリンク以外）などの容器。

【回収できない油】

動物性油（バター、ラード、加工油等）、植物油の一部（パーム油、ヤシ油、カカオ油等）、常温で固まっている植物油脂（ショートニング、マーガリン等）、鉱物油、化学合成油（重油、灯油、ガソリン、エンジンオイル）

◎回収場所は 中央公民館・赤石公民館・町環境循環 PR センター（紫波中央駅隣）・吉水自治公民館・水分公民館・志和公民館・彦部公民館・大地町公民館・佐比内公民館・赤沢公民館・長岡公民館